

祝日特訓

9月より**6年生対象**の**祝日特訓**(無料)をします。 午前9時～12時

第一回 9月21日(月) 敬老の日	申込受付開始 9/16(水)正午(12:00)～	祝日特訓は 申込制 とします。 ①各回の 申込受付開始日 は左のようになります。 ②申込は ショートメール で、お送りください。 ③ショートメールは次のような形式でお願い致します。 祝日特訓〇月×日を申し込みます。 錦織ナオミ
第二回 9月22日(火) 秋分の日振替休	9/2と19/22は同時に申し込みます。	
第三回 10月1日(木) 都民の日	申込受付開始 9/25(金)正午(12:00)～	
第四回 10月12日(月) 体育の日	申込受付開始 10/7(水)正午(12:00)～	
第五回 11月3日(火) 文化の日	申込受付開始 10/28(水)正午(12:00)～	
第六回 11月23日(月) 勤労感謝の日	申込受付開始 11/18(水)正午(12:00)～	

*これは信義の問題ですが、この祝日特訓にほとんど出ておいて、12月で鈴木国語をやめるというようなことはしないでいただきたい。

無料で特訓をするのは、鈴木国語の合格者を増やすためであり、慈善事業をしているわけではないからです。結果を打算して右往左往する人間の何とみっともないことか。信念をもって、正攻法で、最後まで、ぶれないでやり抜く以外に、成功への道はない。

*1月まで在籍した生徒には、毎年卒業記念品として一生読めるような本を2冊プレゼントしています。もう千数百冊プレゼントしています。

*合格体験記を書ってくれた生徒・ご父母には図書カードをプレゼントしています。第一志望に合格して、合格体験記を書いて下さい。

1月には**直前秘密特訓**(無料)をします。 *申込方法については12月にお知らせします。

1月11日(月 am9:00-12:00) / 1月29日(土 am9:00-12:00)

1月30日(日 am9:00-12:00) / 1月31日(月 am9:00-12:00)

*2020年7月中旬 鈴木国語研究所 03-6278-9648 日程の記載などに誤りがある場合には、ご指摘ください。

始めに

鈴木国語創設以来 30 年近く、例年、志望校過去問指導をしてきましたが、対面授業が必ずしもできない今回は非常に困難を感じています。なぜなら、鈴木国語の過去問指導は単なる添削指導ではないからです。対面によるアドバイスをするとこに意味があるからです。しかし、困難だからといって、今まで多くの卒業生に喜ばれてきた伝統を途絶えさせることはしたくありません。そこで、下のような方針で、とりあえず、9月第1回提出のものを、第2回授業でアドバイスをつけて返却するところから始めてみようと思います。

問題解答の提出は、直接手渡し、あるいは、メール添付でお送りください。参加授業日までに到着したものを、次回アドバイスをつけてお返しします。メール添付のもととなるコピーはきちんとしてください。ひどく曲がったようなものや影が入って見づらいものは見ません。郵送による場合はプリント(問題本文のチェックなども確認するため)の返却に困難が生じますので、原則お受けしません。

返却時間は、土曜日は、午前 8:00-8:30 と、授業終了後 12:00-12:30 とします。月曜日と水曜日は、午後 4:00-5:00 と、授業終了後の午後 8:30-9:00 とします。この時間内に対面あるいは Zoom でアドバイスします。この時間以外はお断りします。鈴木国語の「無料」は、相手の気まぐれな時間に合わせるほど安いものではないということです。

9月より、6年生(内部生)対象の志望校別の国語過去問題指導をします。無料です。

1 指導のしかた

- ① 志望校(第一志望校と第二志望校)の過去5年分の問題の入っている問題集を買ってください。

まず、第一志望校の問題集から始めます。

同じ学校に一次試験、二次試験がある場合には、**まず一次試験の問題を5年分やってください。**



- ② **一週間**を目安に、**一年分ずつ**をやって持ってきてください。

一年分が負担に感じる人は**半分あるいは3分の1ずつ**やって持ってきてください。

答えなど見ない。自分でやる。

一年分ずつしか見ません。

一年分ずつしっかり検討する必要があります。**数年分をいっぺんにやるなど内容の無い、いい加減なやり方をすべきではない!**



- ③ 一週間以内に、アドバイスを付けて返却します。



- ④ 5年分が一巡したら、第一志望校の問題を再びやり直して持ってくるか、あるいは、第二志望校の問題をやって持ってきて下さい。



- ⑤ このパターンを、数回繰り返して下さい。

「**考える**」ということを知らない人間は「答えを覚えているから、やりにくい…」という。しかし、教室で今やったばかりの問題をやり直しても、正確に再現できる者はほとんどいない。「覚えている」ということがどんなにいい加減なものであるのか自覚すべきだ。また、たとえ答えを覚えていても、どのように答えを出すのかの**考え方**は幾度でも復習できる。繰り返せば繰り返すほど、新しい発見や理解の深まりがあるはずだ。また、他の考え方とリンクして思考力が高まっていくはずだ。野球の選手はなぜバットの素振りを繰り返すのか。柔道の選手はなぜ打ち込みを繰り返すのか。一流の人間ほど飽くことの無い繰り返しに耐えている。意識的な繰り返しが無意識の技へと発展する。「**体得**」ということはこうして成し遂げられる。勉強は繰り返しを本質とする。これを嫌う者を愚か者・怠け者・三流という。

2 問題をやるときの注意！ ← **必ずお守りください！**

- ① 一年分(問題文・問題・解答用紙〈なければ必要なし〉)を**コピーして**やってください。幾度もやり直すためです。
- ② 原則として **2020年→2019年→2018年→2017年→2016年の順に**やってください。一次試験の問題をまず5年分やること。
- ③ 漢字などの知識問題のマルつけは自分でして、間違えたものや知らなかったものはその場でマスターしてください(当然の事)。
- ④ 記述問題は、**文中の根拠に線を引く**など、思考過程が分かるようにやってください。
- ⑤ 選択問題は、何を根拠に×とし、何を根拠に○としたのかが分かるように文中に、**線などを引いて**ください。
- ⑥ また、選択肢のどの部分が間違っていると考えたのかが分かるように、その部分に**線を引き、×をつけて**ください。

* このような**作業**をするために、問題文を**コピーする**必要があるのです。

* **めんどくでも④⑤⑥の作業をしなければ、過去問題を解く意味はない！**

* こうして自分でていねいにチェックしてみるという**作業**を通して、初めて志望校の傾向を**体得**することができるのです。また、正答を出す技術を磨くこともできるのです。こういうことの大切さが分からないバカに受験資格はない！

* **志望校の傾向を研究し体得するために過去問題を解く**のですから、時間を計ってやる必要はありません。

ただし、だらだらやってはいけません。家でやる時にだらけないようにするためには、1年分を2~3分割し、2~3日に分けて、それぞれの部分を30分くらいでやるという方法がよいと思います。ちなみに、時間の練習は模擬試験や鈴国の復習テストなどですれば足ります。

* **以上のやりかたに従わないものは怒鳴りつけて突き返します。**

土曜日の場合には、**午前8時**から、月曜日・水曜日の場合には、**午後4時**から(午後8:30-9時も)、過去問を返します。Zoomでも返却します。* 教室返却とZoom返却の調節は難しいと予想されますが、やってみるしかないと思っております。

過去問を提出した生徒は早めに来てください。**私の集中が害されるため、これより前には絶対に来ないでください。**

* 冬期講習の期間中は過去問を見ることはしません。

1月は2回しか見ません。最終提出期限は1月20日(水)です。

3 その他

- ① 以上で志望校対策は充分といえます。**志望校対策によって合格できるわけではありません。対策が生きるような国語の実力(読解力・記述力・漢字力)をつけて初めて合格**できるのです。この実力(どこの入試にも共通する)を養うことを忘れて、安易な志望校対策に走るのはきわめて危険であるといえます。これはどの科目についても当てはまります。自分のものにならない志望校対策授業を聞いていても意味はない。志望校対策は自分のものにしなければ意味はない。それをするのは君の意志・生き方だ。それをしないのは君の自己責任だ。
- ② これを利用するかしないかは、個人の自由です。義務でも宿題でもありません。勉強は**自発的に**すべきものです。

- ③ 例年、トップレベルの第一志望校を突破する生徒(懸命に努力する生徒)は3回以上やり直して持ってきます。
- ④ なお、提出物を提出する際に、「お願いします」などのあいさつができない生徒がありますが、教室に入るときにあいさつができないのと同様に、いかななものでしょうか。
- ⑤ 祝日特訓と同様、志望校過去問指導を利用しておいて、12月で鈴木国語をやめるというようなことはしないでいただきたい。そういう人間のために無料のサービスをする理由はありません。
- 私のやり方に従ってきちんとやった者で力がつかなかったものがあるだろうか。

故に、以上のやり方に注文を付けられる覚えもありません。

ひとこと

君たちは秋から模擬試験をたくさん受ける。

①しかし、受けっぱなしでは意味がない。できなかつたところは復習・理解して確実に自分のものにすることが必要だ。特に、算数・理社についてはこれが大切だ。したがって、受ける回数は復習の可能性によって決まってくるはずだ。ちなみに、国語はできなかつた問題を2～3問程度再検討してやり方を把握する。

②よく試験慣れなどということを使うが、漢字の練習をしない人間が試験に慣れた所で、漢字が書けるようになるわけではない。逆に、実力のある人間はすぐに試験になれるだろう。無意味に試験ばかりを受けているよりも一刻を惜しんで実力をつけることが大切だ。

③試験結果に一喜一憂する人が多いが、試験結果をもとに自分のこれまでの勉強過程を反省する人、これからの勉強方法を工夫する人は少ない。試験は感情で対応するものではなく、冷徹な理性的計算で対応すべきものだ。というよりも試験を受ける意味の一つは、後者を磨くことにある。冷徹な理性的計算こそ本番を勝ち抜く本当の試験対応力だからだ。試験を受ける以上、反省→工夫という理性的な対応をすべきだ。落ち込むなどの感情的対応は愚の骨頂だ。

④模試のためにつじつま合わせの勉強をすべきではない。きちんとした自分の勉強を積み重ねつつ試験を受けていくべきだ。試験ごとに一夜漬けのようなつじつま合わせの勉強をしていると、結局力を付けないまま本番を迎えることになり、不合格となる。マイペースとはとろとろ勉強することではなく、自分の目的のために自分の道を自分でひたすら歩むことだ。

さらにひとこと

記述力をつけたかったら、参考解答を完璧に再現できるようにしろ。「学ぶ」という言葉は「まねぶ(まねる)」から生まれた言葉だ。ピアノの練習は先生のピアノをまねするところから出発する。先生と同じように弾けることを目指す。これが「まねぶ(まねる)」だ。こうしていくつもの曲をマスターしていくうちに、自分らしい弾き方もできるようになっていく。しかし、自分勝手なでたらめを弾き続けていても技術は向上しない。記述力の向上も同じような過程を通る。まず夢に見るくらいまねをして自分のものにしてしまうこと。

もう一言

国語はしっかりした方法で勉強していれば、入試本番までには必ず力がついてくる科目だ。これは君たちの精神年齢の発達(抽象的思考と論理力の獲得)と関係がある。君たちは入試に真剣に挑戦することで大きな精神的成長を得る。国語力もこれと相まって潜在的なものが一つにまとまり、大きく伸びる。この機会を逃すべきではない。無意味な宿題などの無駄な勉強は一切しないことだ。